



もしもの時に備える「水の汲み置き」



東京都水道局 藪田 実樹
(令和7年度抄録委員会委員)

突然の災害でライフラインが止まったとき、まず困るのが「水」。飲み水はもちろん、トイレや掃除など、生活のあらゆる場面で必要になります。そんなときに頼りになるのが、あらかじめ準備しておいた「水の汲み置き」です。

今回は、東京都水道局が推奨する「水の汲み置き」の方法について、ご紹介します。

① 容器の選び方と水の入れ方

- ・清潔で蓋のできる容器を使用しましょう。
- ・できるだけ空気に触れないよう、口元まで一杯に水道水を入れてください。
- ・浄水器を通したり、沸かしたりせず、蛇口から直接注ぎましょう。
※浄水器を通したり、沸かしたりすると、消毒用の塩素が除去されてしまいます。

② 必要な量

- ・人が1日に必要な水の量は約3リットルです。
- ・3日分程度（1人あたり9リットル）を目安に備えましょう。

③ 保存期間と方法

- ・塩素の消毒効果は下記のとおり持続します。
常温保存：直射日光を避ければ3日程度
冷蔵保存：冷蔵庫で保存すれば10日程度
- ・保存開始日をメモしておくとう便利です。
- ・飲むときは容器に直接口をつけず、コップなどに注いでから飲みましょう。
- ・保存期間を過ぎた水は、生活用水として活用しましょう。



④ 生活用水の備え

- ・飲料水だけでなく、生活用水（洗濯・掃除・トイレ）の備えも重要です。
- ・ポリタンクに水道水を入れておく、お風呂の水を張っておくなどの備えをしておきましょう。

参考：<https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/kurashi/shinsai/sonae/kumioki>